

第 84 回大分県発明くふう展

作品説明書

記入不要

3

【作品名】

リハキャップ

【作品の大きさ】 直径 ($\phi 3.5$, $\phi 4.0$, $\phi 4.5$) cm 高さ (1.2) cm

【発明のポイント】(発明のきっかけ、特徴、くふうした点、苦労した点など)

◎発明のきっかけ

高齢者の方と関わる中で、多くの方から「ペットボトルのキャップが固くて自分で開けることができない。」といった話をお聞きすることがあった。そこで、私がデイケアで担当している高齢者42名(男性13名、女性29名)にペットボトルのキャップを開ける動作についてアンケート調査を行った。詳細は別紙1参照。結果は、①ペットボトルのキャップを何も使わず自分の力で開けることができない方は20名(47.6%)であった。この20名の方に、②キャップをどのような方法で開けているかお聞きすると、内11名(55.0%)は道具を使用しており、残りの9名(45.0%)は家族に頼んでいた。また、③キャップを何も使わず自分の力で開けられるようになりたいと回答された方は、18名(90.0%)であった。そこで、この多くの方々が道具や家族に頼らず、キャップを自分の力で開けられるようになる方法はないかと考え、リハキャップを発明した。

◎特徴

リハキャップは別紙2のように3種類のサイズから構成され、ペットボトルのキャップに被せて使用する。別紙3の手順で、リハキャップのサイズを段階的に小さくしていくにつれ、開けるために必要な力が増加していく。リハキャップを使って開ける動作を繰り返し行うことで開ける力が強化され向上していく。キャップを開けるための福祉用具や自助具は多く存在しているが、それらは永続的に使用していく必要がある。リハキャップは一定期間の使用でリハビリ効果が得られ、将来的に何も使用せずキャップを自分の力で開けることができるようになり、道具や家族に頼らず自立して行えることを特徴としている。

【使い方・説明図】(絵や写真などを使用してもかまいませんので使い方をわかりやすく説明してください。)

- ・リハキャップをペットボトルのキャップに装着した状態は別紙2を参照
- ・リハキャップ使用から自立までの手順は別紙3を参照

◆作品制作者◆

学校名	(年)	氏 名	佐々木 秀 昭
学校名	(年)	氏 名	佐々木 琉 晟
学校名	(年)	氏 名	

※ 「作品説明書」は「応募用紙」と併せて大分県発明協会事務局へ郵送、FAXにて提出ください。

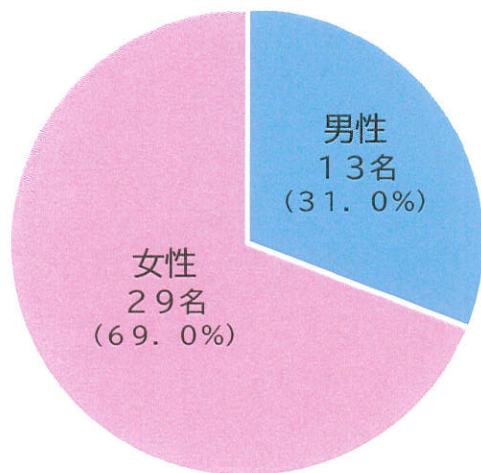
※ 植物・動物・食品・水等の持ち込みが必要となる作品の出品はできません。

※ 個人(一般の部)の方は、氏名のみご記入ください。

別紙1

ペットボトルのキャップを開ける動作についてのアンケート調査結果

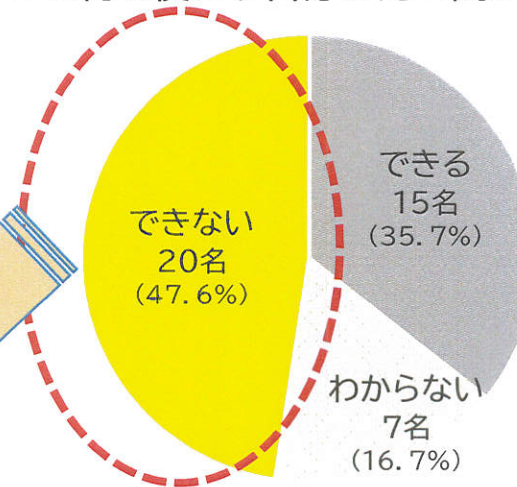
アンケート対象者の男女別人数と平均年齢



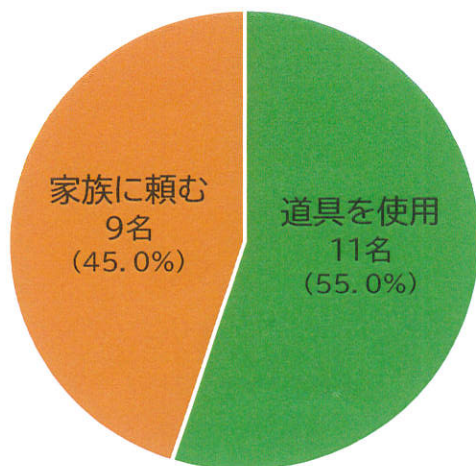
アンケート対象者
合計42名

平均年齢
男性:85.8歳
女性:88.7歳

①キャップを何も使わず自分の力で開けられますか？

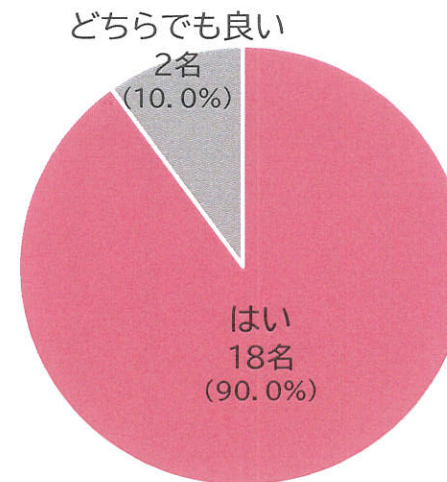


②どんな方法で開けていますか？



道具が近くにな
かったり、家族が
不在の場合は、
「諦めて飲まない」
との意見もあった

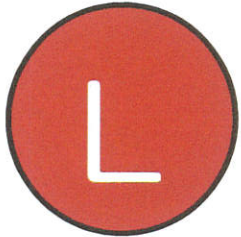
③何も使わず自分の力で開けられるようになりたい
どちらでも良い
ですか？



「できない」と回答した20名に質問！

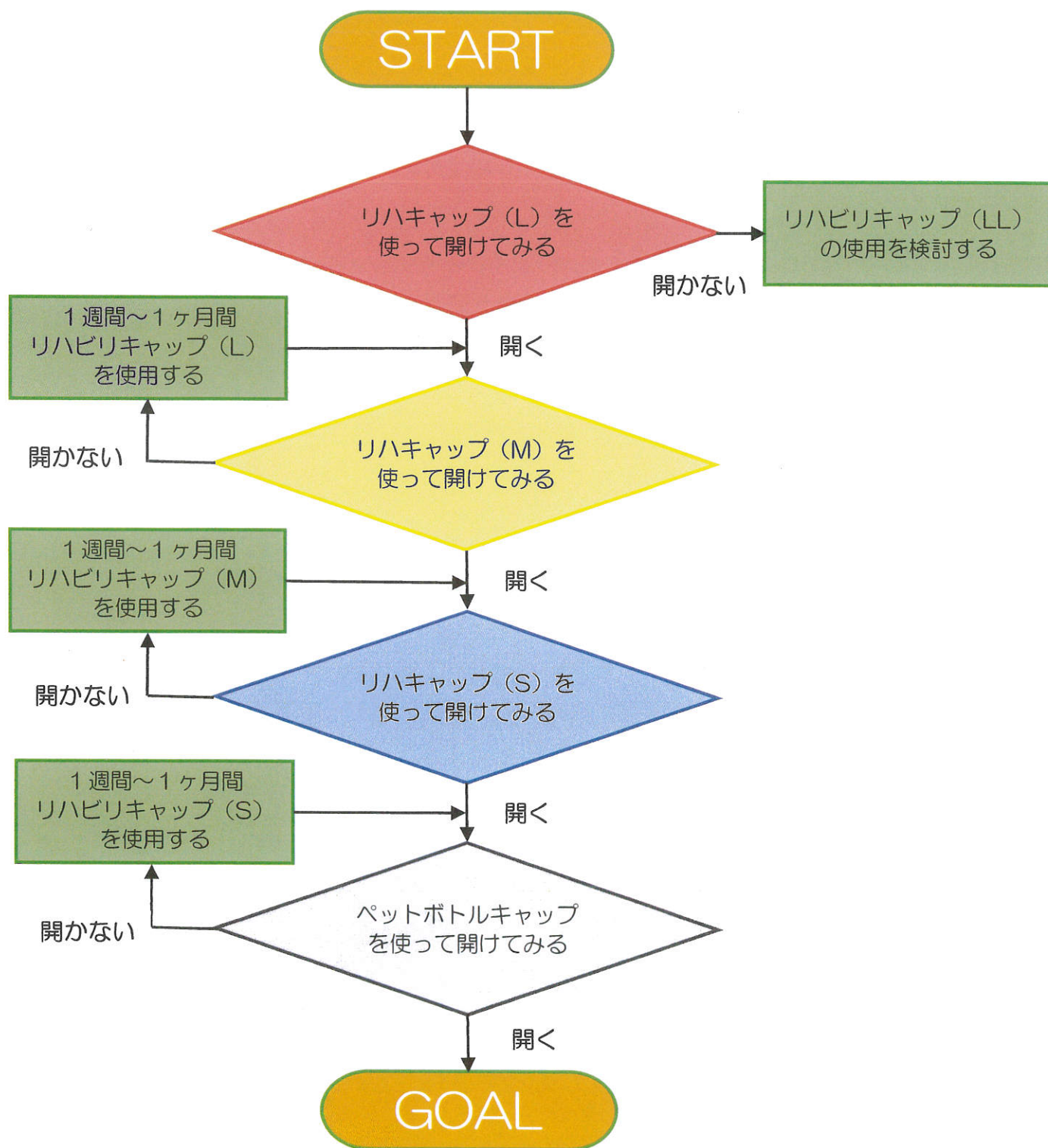
別紙2

ペットボトル

キャップ φ30mm	Sサイズ φ35mm	Mサイズ φ40mm	Lサイズ φ45mm
			
			

別紙3

リハキャップ使用から自立までの手順



自立達成！！